

STAY OR GO

SUMIKO

Ammonite chair 2006.1.12 @千葉 LOOK



←「1.12 千葉LOOK 左指注目。 昨年のお披露目時」→

ステージ上に見れたギターのSentimental Journey(以下S, J)の左手人差し指は、スニーカーズ?ってくらい細さと太さの包帯で固定されていた。只今、指骨骨折中、年末の事故による怪我は当初、指が薄皮一枚でしか繋がっていなかったというから恐ろしい。

昨年の夏、アンモナイトチェアに正式加入した彼は、華のある情緒豊かなギターを奏でる。繊細でいて、寂ろつけない真っ直ぐな澄んだ音色を奏する。

怪我=(イコール)その音色が聴けなくなると思い込んだ私は、かなり動揺した。

このバンド実は、一昨年にはベースの小穴が劇薬を指にかぶり皮膚移植するという大怪我に見舞われたばかり、その小穴が本格的に以前と変わらない音を取り戻した大穴の出来事が...ただの骨折では無さたらず、指骨骨折...

怪我からまだ一ヶ月と経っていない今日のLIVE。

「キャンセルしよう」と勧めるメンバーにS, Jが放った言葉は、

「絶対やる! 3本の指で弾く!」であった。いかにも強い発言!

客席から押し出される彼の性格からして「きつと、何事もなかったかのように強気で全てをやりきるんだろうな」と思っていたら...案の定。

案の定どころか、音数が減ることもなく更にアレンジを変えることもなく、まともに3本の指で弾く潔さ、きつと指を下に向けてだけでも血液の流れで痛みが走るはずだ。そんな状態で他の指が弦を押さえれば、必然的に人差し指にも力が入り、激痛が走る状態。その状態下で3本の指で真っ直ぐ勝負を挑んできた。それが、疼々しいとか、全く感じさせないから、かえってこちらがジタバタすることも出来ず只黙って見入ることしかできなかった。アクションはいつも比べれば^右に控えめだったけれど、そのことが唯一震えている指にとっては、熱い思いでしてしまふほどの徹底ぶりだった。そんなギタープレイにどんどん惹きこまれて目は釘づけ。いくらギターには、色々なコードの押さえ方があるといったって、人差し指を使わないコードなんて数えるほどしかないのでは? アンモナイトチェアはきれいなメロディのわりに演奏はヘビーでお客にバンドマンが多い、そんな曲調をいったい3本の指で弾けるものなのだろうか? も、弾けたとして、全く以前の演奏にひけをとらないということは、怪我の状態もまだまだまならない時から相当ギターに熱れてポジションチェンジとか練習していたのでは? すかしているけれど、これ一朝一夕に出来るものではない。そんな

悪いを膨らませていたら、な・な・なんと「HAVANA」のイントロが始まったのだ!

「ちょっとまって~」震えている指の平帯をことごとく、ぶち破るオ・カ・タ

「S, J、指とれそうだったんだよね?」

「まだそんなに劇薬経過してないよね?」

「HAVANA」アンモの曲の中で一番ギター難しいよね?

「HAVANA」は軽快なリズムとアグレッシブなギターが最大の魅力の曲。この曲が始まると思わずギター側に移動して、その指使いを堪能するのが楽しみな指の動く曲。

それを、進んで今日曲順に入れてくることさ。その心意気!! 恐れ入りした。

彼は、その人を去すとはよく言ったもの。

本当にS, Jのギターから感じる真っ直ぐさ、潔さは、まさしく彼のものだよな~と強く納得させられた。本当にまじりつけないストレートなギターの音色そのもの、自分に言い訳を許さない。ここまでくると、プロ意識が高いとかの次元を軽く飛び越して、もう武士の

域!! 武士、若殿である。(さむらい... 審みの人ではちょっと出来ないようなことをやってのける人の意もある。)伊達に胸にお給かしてないよね。

ギターが聴けなくなるかもなんて思いつめていた自分がちょっとおかしくも思えて笑えた。彼の指が、ギターを奏でているのではない、極端な話、この心意気が音を奏でているのだ。今までのアンモナイトチェアにはなかった、このサムライ気質、この武士の顔が顔所で顔を出すから魅せられてしまう。

そして、華のあるギターのその花は、全面に存在を誇示するバラではない事を思う。音色に艶はあってもトゲはない。彼の中に通う魂は、粉れもなぐ(和)。そうどちらかというとなりのギターは日本酒に出てくるような濁った肥水の上でも涼と映(映)る。加入当初から感じていた源としたものは、サムライ魂のほんの一片を唄いたにすぎない。そして、このサムライ魂は今、確実にアンモナイトチェアの中の眠れる獅子を起しつづつある。

そう、S, Jの加入で獅子たちが我を覚醒し始めたのだ。LIVEの回数を重ねるごとに濃くなるから驚く。そのエネルギーには目を見張るものがある。LIVE毎の変化を見逃したくなくて、気づかぬLIVE密着者の私がいる。

獅子たちの変化は、次号で...